

令和元年 8月20日
国土交通省
大分川ダム工事事務所

記者発表資料



【速報】台風10号に伴う8月14日からの豪雨において
大分川ダムに洪水の一部を貯留し
洪水処理の効果がありました。

《発表概要》

- 令和元年8月14日より試験湛水中の大分川ダムにおいて、洪水の一部を貯水池に貯留したことにより、ダム下流において河川の水位を氾濫注意水位（2.80m）まで上昇させない効果がありました。
＜七瀬川胡麻鶴観測所地点において河川の水位を約44cm低下＞（別紙参照）

大分川ダムへの最大流入量及び最大放流量

最大流入流量：毎秒117.2立方メートル（15日5時40分時点）
最大流入時放流量：毎秒32.2立方メートル（約72%をダムに貯留）
最大放流量：毎秒56.6立方メートル（15日11時50分時点）
ダム貯留量：約256.7万立方メートル（15日11時00分時点）

今市雨量観測所：総雨量298mm（14日10時～15日18時）
最大1時間雨量51mm（15日0～1時）

※上記値は速報値や推定値を含んでおり、今後の調査等により変更となる可能性があります。

【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局 大分川ダム工事事務所
大分市舞鶴町1丁目3番30号

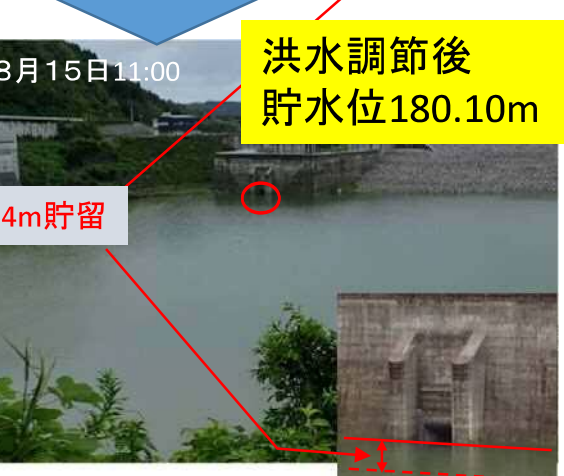
TEL：097-538-3391 FAX：097-538-3397
Eメール：oitagawadamu@qsr.mlit.go.jp

技術副所長 池浦 光文（内線 204）
調査設計課 課長 藤原 吉洋（内線 351）

大分川水系大分川ダムでの試験湛水中の効果（令和元年 台風10号）

台風10号に伴う豪雨により、大分川ダム上流域においては、298mm(8月14日10時～15日18時)の累加降雨を観測しました。大分川ダムは、現在、本格運用前の試験湛水中ですが、256.7万 m^3 (25mプール約7,132杯分)の洪水を一時的に貯留し、ダム下流の七瀬川の水位低減(胡麻鶴地点で44センチの水位低減)を図りました。

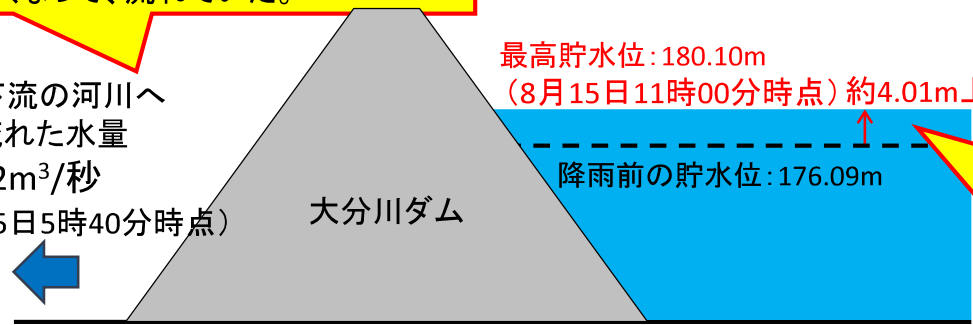
大分川ダムの洪水貯留がなければ、七瀬川の水位は氾濫注意水位2.8mを超過していたと推定されます。大分川ダムの完成に向け、引き続き試験湛水を着実に実施していきます。



◆大分川ダムの状況

最大流入時のダムの調節量
約85.0 m^3 /秒(=①-②)
少なくなって、流れていた。

②下流の河川へ
流れた水量
32 m^3 /秒
(8月15日5時40分時点)



①大分川ダムへ流れてきた水量
117 m^3 /秒
(8月15日5時40分時点)

約2,567,000 m^3 の水
貯め込んだ。
これは25mプールの
約7,132杯分です。

今市雨量観測所(累加雨量): 298mm(8/14 10時～8/15 18時まで)

